

株式会社マツオカコーポレーション

2026年3月期

決算補足説明資料

証券コード3611

2026年5月14日



サマリ

(単位：百万円)

概況

- 2026年3月期は、縫製事業は期を通じて堅調な受注状況が継続し、生産拡大が計画通り進捗した。ラミネーションフィルム事業は前期の業績伸長に大きく寄与した顧客のヒット商品向け素材供給の反動から、前々期並みの水準へと戻ったものの、全体として本業は堅調に推移し前期比で増収増益となった。
- 2026年3月期通期業績予想に対しては、売上高は、本業が堅調に推移し達成。営業利益は、円安の進行により海外工場コストの円換算額が増加し未達。為替差損益調整後営業利益は、ラミネーションフィルム事業が想定より苦戦したことからの未達。経常利益は、期末時点で想定より円安が進行したことにより、ドル資産等の換算替えによる為替差益が増加し達成。親会社株主に帰属する当期純利益は、連結子会社において減損損失を特別損失として計上したものの、経常利益の増益から達成。

| | 業績予想 | 実績 | 差異 | 達成率 |
|-----------------|--------|--------|------|--------|
| 売上高 | 74,000 | 74,251 | +251 | 100.3% |
| 営業利益 | 2,500 | 2,174 | ▲325 | 87.0% |
| 為替差損益調整後営業利益 | 5,000 | 4,813 | ▲186 | 96.3% |
| 経常利益 | 4,700 | 5,391 | +691 | 114.7% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 3,000 | 3,117 | +117 | 103.9% |

見通し

- 2027年3月期は、新中期経営計画初年度として、売上高800億円、営業利益34億円、為替差損益調整後営業利益53億円、経常利益49億円、親会社株主に帰属する当期純利益34億円の見通し。
- 縫製事業を中心に事業拡大を見込む。経常利益は為替影響によるドル資産等の換算替えによる為替差損を想定。

配当予想

- 2026年3月期の1株当たり配当金（年間）は、普通配当90円に設立70周年記念配当10円を加算した100円を予定。
- 2027年3月期の1株当たり配当金（年間）は、配当性向35%を目安に115円を予定。利益成長による配当額増加を目指す。

INDEX

- 1 2026年3月期 決算概要
- 2 2027年3月期 連結業績見通し
- 3 直近の主なトピックス



INDEX

- 1** 2026年3月期 決算概要
- 2 2027年3月期 連結業績見通し
- 3 直近の主なトピックス



業績ハイライト

| 売上高 | 営業利益 | 為替差損益 調整後営業利益 | 経常利益 | 親会社株主に帰属する 当期純利益 |
|---------------|-----------------|------------------|----------------|---------------------|
| 74,251 百万円 | 2,174 百万円 | 4,813 百万円 | 5,391 百万円 | 3,117 百万円 |
| 前期比 +5.2 % | 前期比 +401.3 % | 前期比 +13.7 % | 前期比 +28.4 % | 前期比 +19.9 % |

増減要因

- 売上高は、前期比5.2%の増加。縫製事業においては、堅調な受注と安定した生産稼働を背景に増収となった。一方、ラミネーションフィルム事業においては、顧客のヒット商品の剥落等により前々期並みの水準となった。
- 営業利益は、前期比401.3%の増加。縫製事業の生産性向上や生産体制の最適化が奏功した。
- 為替差損益調整後営業利益は、前期比13.7%の増加。縫製事業が大幅増益したものの、利益率の高いラミネーションフィルム事業の減益により伸び幅は抑えられた。
- 経常利益は、前期比28.4%の増加。本業が堅調だったことに加え、期末為替レートが円安水準に着地したことで、ドル資産等の換算替えによる為替差益を計上した。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比19.9%の増加。特別損失を計上するも、経常利益の増益により前期比で増加となった。

2026年3月期 連結損益概要

(単位：百万円)

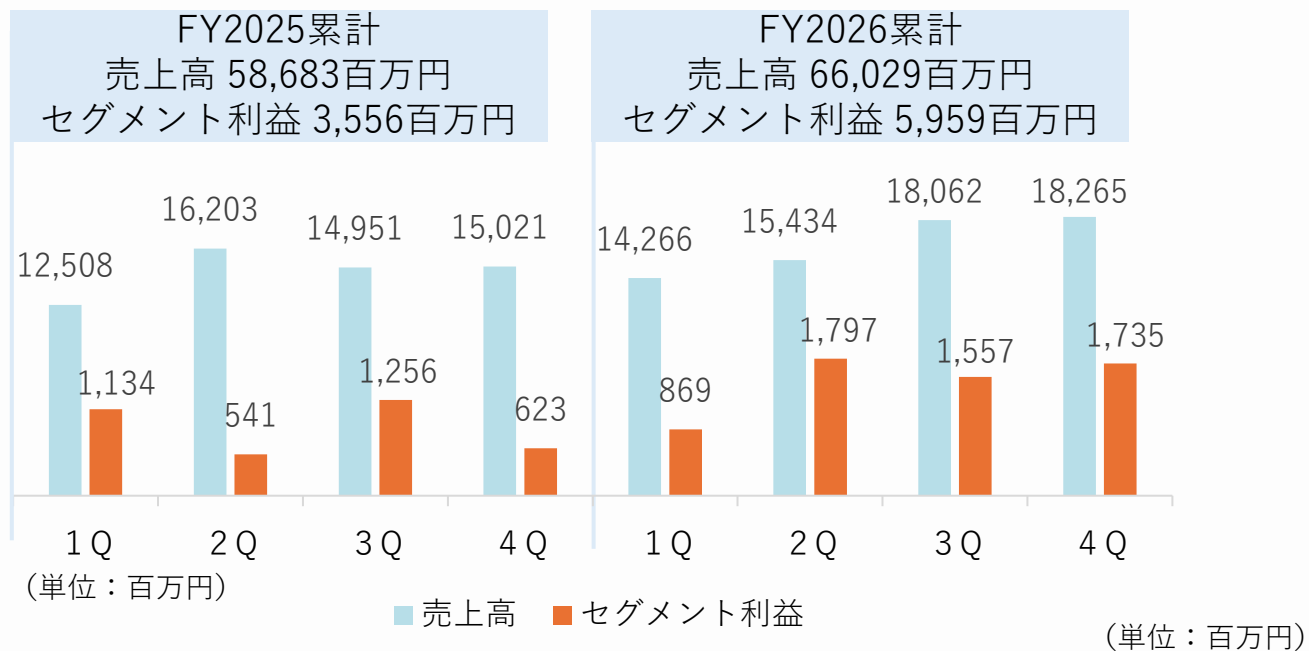
| | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減 | 増減率 |
|-----------------|----------|----------|--------|---------|
| 売上高 | 70,579 | 74,251 | +3,671 | +5.2% |
| 営業利益 | 433 | 2,174 | +1,741 | +401.3% |
| 為替差損益調整後営業利益 | 4,233 | 4,813 | +579 | +13.7% |
| 経常利益 | 4,199 | 5,391 | +1,191 | +28.4% |
| 親会社株主に帰属する当期純利益 | 2,600 | 3,117 | +517 | +19.9% |
| 1株当たり当期純利益 | 259.47円 | 298.12円 | | |
| 1株当たり配当金 | 90.00円 | 100.00円 | | |
| ROE | 7.3% | 8.0% | | |
| ROA | 6.1% | 7.3% | | |

※2026年3月期 1株当たり配当金額内訳
普通配当90円00銭、記念配当10円00銭

| 為替レート | | 2025年3月期 | | 2026年3月期 | | 通期予想レート |
|---------|------|-------------|-----------|-------------|-----------|---------|
| | | (24/12) 子会社 | (25/3) 当社 | (25/12) 子会社 | (26/3) 当社 | |
| <円/USD> | 期中平均 | 151.7円 | 152.6円 | 149.6円 | 150.7円 | 148.0円 |
| | 期末 | 158.2円 | 149.5円 | 156.6円 | 159.9円 | 142.0円 |
| <円/元> | 期中平均 | 20.0円 | — | 20.8円 | — | 20.4円 |
| | 期末 | 21.7円 | — | 22.4円 | — | — |

※当社グループのうち期末決算において3月時点の為替レートを使用するのは、当社及びMYANMAR POSTARION CO.,LTD、その他の子会社は12月時点の為替レートを使用しております。

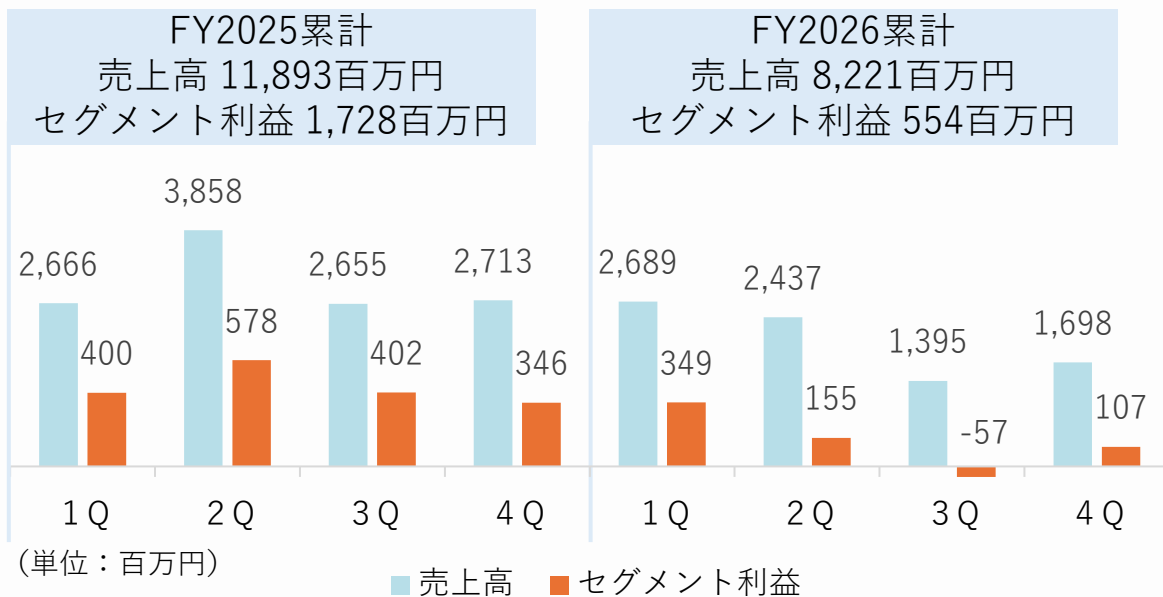
縫製事業



| | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減 | 増減率 |
|------------------|----------|----------|----------|--------|
| 売上高 | 58,685 | 66,029 | +7,343 | +12.5% |
| セグメント利益 | 3,556 | 5,959 | +2,403 | +67.6% |
| 販売枚数 | 5,202万枚 | 6,350万枚 | +1,147万枚 | +22.1% |
| 【参考】為替差損益調整後営業利益 | 3,480 | 5,469 | +1,989 | +57.2% |

- 2026年3月期においては、堅調な受注に支えられ、安定した生産体制のもと大幅に増収・増益の結果となった。
- 特に、ワーキングウェアとインナーウェア・カットソーの受注が増加。それらを生産するバングラデシュ工場の生産キャパシティ拡大が進んだ。
- グループ全体で各国の生産拠点の特性を踏まえた生産アイテムの最適配置の推進や、従業員の習熟度向上により生産性が高まり、利益拡大に繋がった。
- 2027年3月期は、引き続き受注拡大と生産キャパシティ拡大を図り、主にインナーウェア・カットソー、寝装寝具（その他に分類）の伸長により更なる増収・増益を見込む。

ラミネーションフィルム事業



(単位：百万円)

| | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減 | 増減率 |
|------------------|-----------|-----------|----------|--------|
| 売上高 | 11,893 | 8,221 | ▲3,671 | ▲30.9% |
| セグメント利益 | 1,728 | 554 | ▲1,173 | ▲67.9% |
| 販売ヤード数 | 1,825万ヤード | 1,364万ヤード | ▲460万ヤード | ▲25.2% |
| 【参考】為替差損益調整後営業利益 | 1,723 | 586 | ▲1,137 | ▲66.0% |

- 2026年3月期は、顧客のヒット商品の剥落が主因となり、セグメント別業績は前々期並みの水準となった。
- 加えて、中国市況の低迷が続く中で買い替え需要が生じにくく、足元の需要が鈍化。
- 一方で、今後の拡大が見込まれる中国国内の新規顧客企業やマーケット開拓を進め、着実に事業基盤の構築を図った。
- 営業強化の目的で、人員採用の拡充、上海とホーチミンに営業事務所を開設した。
- 2027年3月期は、原材料費が原油価格高騰の影響を受ける可能性を踏まえながら、維持または増収を目指す。

売上高（品目別）

- ワーキングウェアが、猛暑対策のファン付きウェアの需要拡大を受けて前期比48.9%増の大幅増収。
- 一部中国工場における生産アイテム構成の変更により、カジュアルウェアが前期比2.7%の微減。同工場にて、別アイテムの生産を開始したことで、その他カテゴリにて計上した。

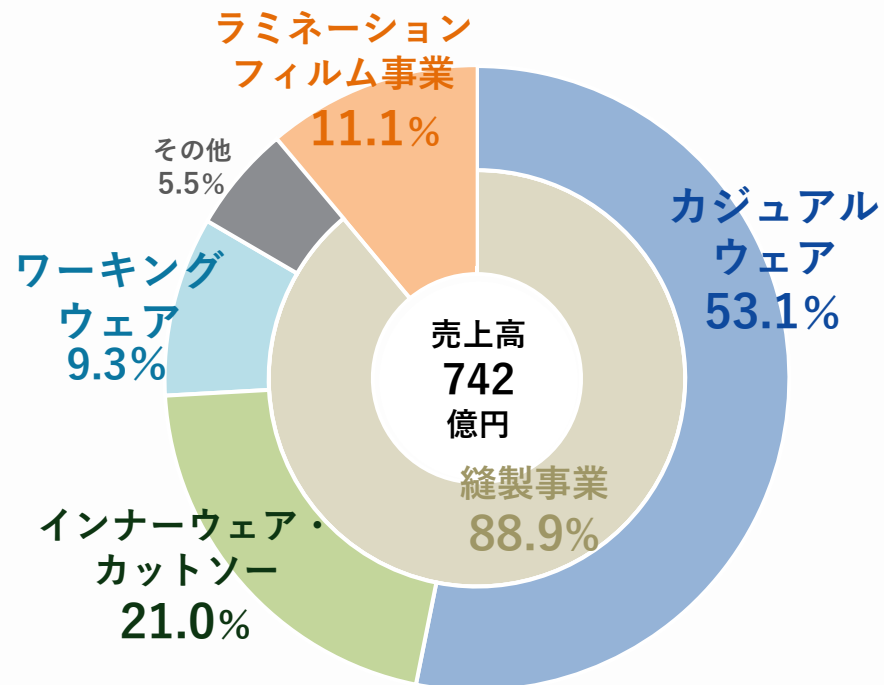
品目別売上高（対前期比）

（単位：百万円）

| セグメント/品目 | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減 | 増減率 |
|---------------|----------|----------|--------|--------|
| 縫製事業 | 58,685 | 66,029 | +7,343 | +12.5% |
| カジュアルウェア | 40,538 | 39,459 | ▲1,079 | ▲2.7% |
| ワーキングウェア | 4,632 | 6,897 | +2,265 | +48.9% |
| インナーウェア・カットソー | 13,513 | 15,567 | +2,053 | +15.2% |
| その他 | 0 | 4,105 | +4,104 | -% |
| ラミネーションフィルム事業 | 11,893 | 8,221 | ▲3,671 | ▲30.9% |
| 合計 | 70,579 | 74,251 | +3,671 | +5.2% |

新区分については次ページにて説明

2026/3期（実績）



品目区分変更（インナーウェア・カットソー）

- 2026年3月期第1四半期より、「インナーウェア」から「インナーウェア・カットソー」区分へ変更いたしました。これは従来の「インナーウェア」に、同一生産工程で製造されるカットソーアイテムの一部を併せて集計したものであり、当社の製品分類としてより適当な区分へと変更しております。
- 当該変更の対象は、2025年3月期第2四半期より「カジュアルウェア」に区分されていたもので、変更後区分による過年度の金額は以下の通りとなります。

品目別売上高（区分変更前）

| セグメント/ 品目 | 2025年3月期 第2四半期 | | 2025年3月期 第3四半期 | | 2025年3月期 通期 | |
|---------------|-------------------|------------|-------------------|------------|----------------|------------|
| | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) |
| 縫製事業 | 28,712 | 81.5 | 43,663 | 82.6 | 58,685 | 83.1 |
| カジュアルウェア | 23,152 | 65.7 | 33,343 | 63.1 | 44,343 | 62.8 |
| ワーキングウェア | 1,964 | 5.6 | 3,224 | 6.1 | 4,632 | 6.6 |
| インナーウェア | 3,594 | 10.2 | 7,094 | 13.4 | 9,708 | 13.8 |
| その他 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| ラミネーションフィルム事業 | 6,524 | 18.5 | 9,180 | 17.4 | 11,893 | 16.9 |
| 合計 | 35,237 | 100.0 | 52,844 | 100.0 | 70,579 | 100.0 |



品目別売上高（区分変更後）

| セグメント/ 品目 | 2025年3月期 第2四半期 | | 2025年3月期 第3四半期 | | 2025年3月期 通期 | |
|-------------------|-------------------|------------|-------------------|------------|----------------|------------|
| | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) | 金額 (百万円) | 構成比 (%) |
| 縫製事業 | 28,712 | 81.5 | 43,663 | 82.6 | 58,685 | 83.1 |
| カジュアルウェア | 20,655 | 58.6 | 30,508 | 57.7 | 40,538 | 57.4 |
| ワーキングウェア | 1,964 | 5.6 | 3,224 | 6.1 | 4,632 | 6.6 |
| インナーウェア・ カットソー | 6,090 | 17.3 | 9,930 | 18.8 | 13,513 | 19.1 |
| その他 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 | 0 | 0.0 |
| ラミネーションフィルム事業 | 6,524 | 18.5 | 9,180 | 17.4 | 11,893 | 16.9 |
| 合計 | 35,237 | 100.0 | 52,844 | 100.0 | 70,579 | 100.0 |

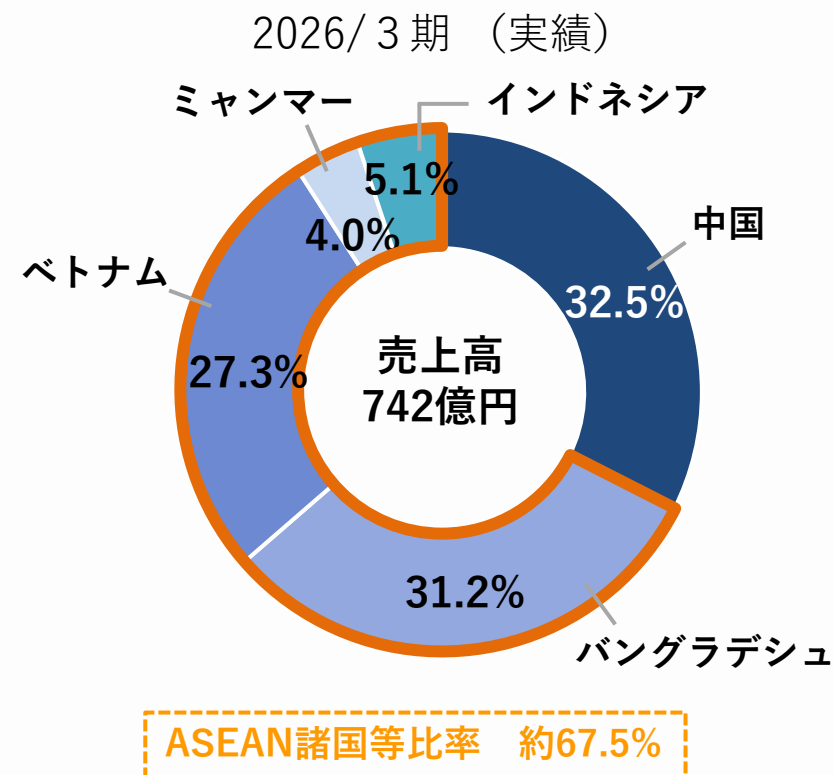
売上高（生産地域別）

- バングラデシュにおいては、ワーキングウェア、インナーウェア・カットソーの需要拡大に対応し、生産キャパシティを拡大できたことで売上高24.8%の増加。
- インドネシアでは、生産アイテムの変更を経て生産性が向上し、売上高27.3%の大幅伸長。
- 生産地シフトの状況について、ASEAN諸国等の売上高比率は67.5%で前年比プラス3.9ポイントとなった。

生産地域別売上高（対前期比）

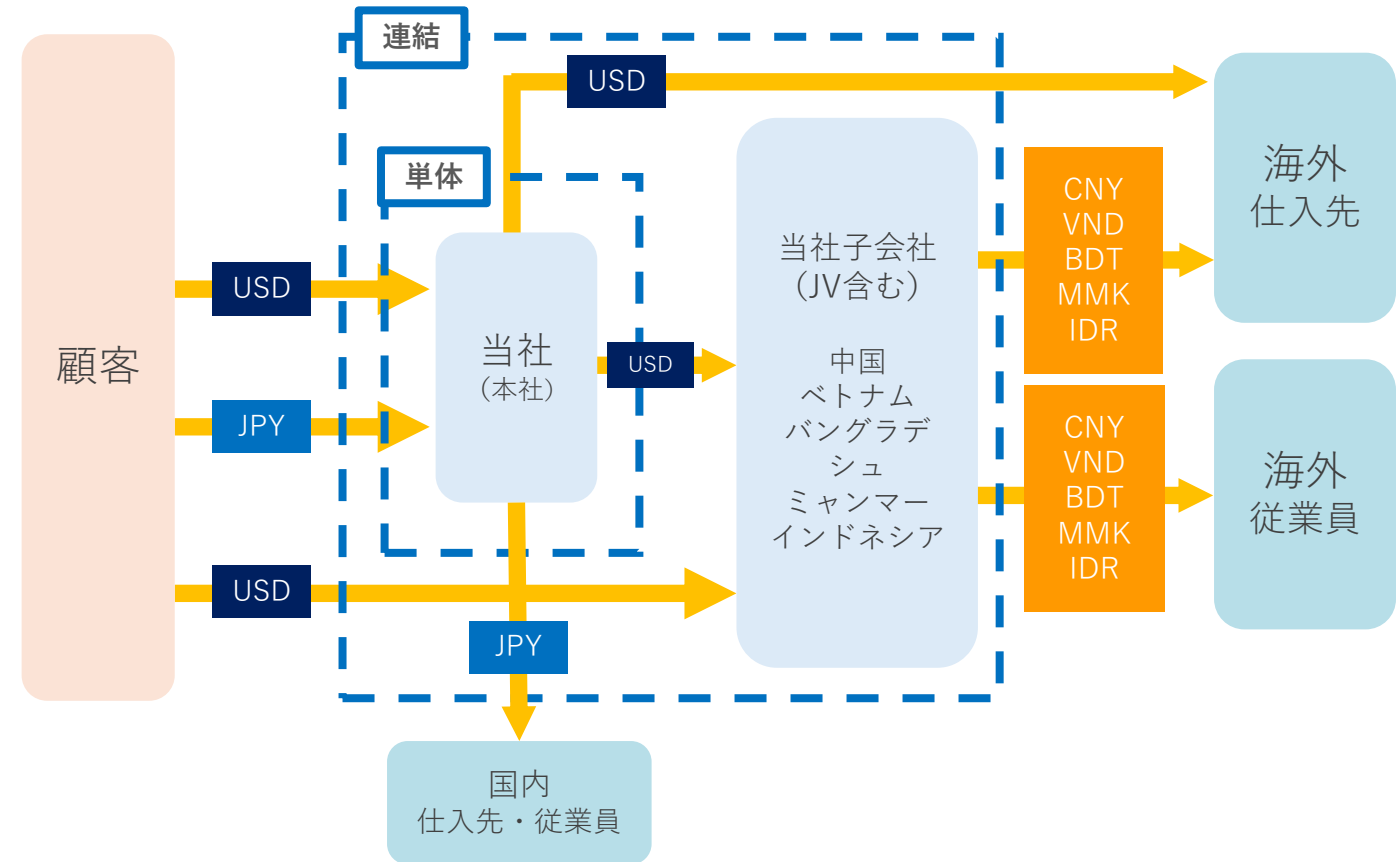
（単位：百万円）

| 生産地域 | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減 | 増減率 |
|------------|----------|----------|--------|--------|
| 中国 | 25,709 | 24,142 | ▲1,566 | ▲6.1% |
| ASEAN諸国等小計 | 44,869 | 50,108 | +5,238 | +11.7% |
| ベトナム | 20,143 | 20,251 | +108 | +0.5% |
| バングラデシュ | 18,562 | 23,167 | +4,605 | +24.8% |
| インドネシア | 2,950 | 3,755 | +804 | +27.3% |
| ミャンマー | 3,213 | 2,933 | ▲279 | ▲8.7% |
| 合計 | 70,579 | 74,251 | +3,671 | +5.2% |



為替の影響及び「為替差損益調整後営業利益」について①

- 当社グループ事業の売上収入は、約7割が米ドル、残りの約3割が他の通貨（主に日本円と中国元）。
- 米ドル収入は、主に海外原材料仕入や海外子会社工場への縫製加工賃送金等の支出に充て、日本円収入は当社（本社）の国内原材料仕入、販管費等支出や納税、借入金返済、剰余金配当等の支出に充当。
- 海外子会社工場では、主として日本からの米ドル縫製加工賃を現地通貨に両替し、人件費等を含む工場運営経費の支出に充当。
- このような収支構造から、当社グループに残る現預金残高の約5割が米ドルとなる。



※通貨略称 JPY：日本円、USD：米ドル、CNY：中国元、VND：ベトナムドン
BDT：バングラデシュタカ、MMK：ミャンマーチャット、IDR：インドネシアルピア

為替の影響及び「為替差損益調整後営業利益」について②

- 当社グループの収支構造では、為替変動によって、海外子会社損益計算書の製造原価、販管費及び一般管理費の円換算額が変動する。一方で取引先との個別契約等による為替変動リスクヘッジの効果は、日常的な営業取引決済等から発生する為替差損益として、損益計算書において営業外損益に計上される。これらの為替差損益は当社の営業取引（本業）から生じると考え、営業取引から発生した為替差損益を調整した事業損益を算定し「為替差損益調整後営業利益」として開示している。
- **計算式：為替差損益調整後営業利益 = 営業利益 + 営業取引から発生した為替差損益**

注：為替差損益の分類方法は以下の通り。

営業取引から発生した為替差損益：売掛金及び買掛金から生じる決済差額及び換算差額、並びに為替レート差に起因する連結相殺差額

財務取引から発生した為替差損益：現預金、貸付金及び借入金から生じる決済差額及び換算差額

(単位：百万円)

| | 2022年3月期 | 2023年3月期 | 2024年3月期 | 2025年3月期 | 2026年3月期 |
|---------------------|------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 売上高 | 51,056 | 62,778 | 60,176 | 70,579 | 74,251 |
| 営業利益 | 181 | 67 | 792 | 433 | 2,174 |
| 為替差損益 | 550 | 2,848 | 3,404 | 3,638 | 3,154 |
| うち営業取引から発生したもの | 382 | 1,823 | 2,454 | 3,799 | 2,638 |
| うち財務取引から発生したもの | 168 | 1,024 | 949 | ▲160 | 516 |
| 為替差損益調整後営業利益 | 563 | 1,890 | 3,247 | 4,233 | 4,813 |
| 経常利益 | 1,037 | 3,202 | 4,493 | 4,199 | 5,391 |

連結貸借対照表

(単位：百万円)

| | | 2025年3月期 | 2026年3月期 | 増減 | 増減率 |
|------------------|--------|----------|----------|--------|--------|
| 資産合計 | | 72,453 | 75,174 | +2,720 | +3.8% |
| | 流動資産 | 47,715 | 50,118 | +2,402 | +5.0% |
| | 有形固定資産 | 20,861 | 20,987 | +126 | +0.6% |
| | その他 | 3,876 | 4,068 | +191 | +4.9% |
| 負債合計 | | 31,924 | 31,615 | ▲308 | ▲1.0% |
| | 流動負債 | 22,664 | 19,825 | ▲2,839 | ▲12.5% |
| | 固定負債 | 9,259 | 11,790 | +2,530 | +27.3% |
| 純資産合計 | | 40,529 | 43,558 | +3,029 | +7.5% |
| 自己資本 | | 37,556 | 39,939 | +2,382 | +6.3% |
| 自己資本比率 | | 51.8% | 53.1% | +1.3p | — |
| 有利子負債残高 | | 16,236 | 14,947 | ▲1,288 | ▲7.9% |
| D/Eレシオ | | 0.56倍 | 0.48倍 | ▲0.08p | — |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | | 2,724 | 6,071 | +3,346 | — |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | | ▲2,034 | ▲4,357 | ▲2,323 | — |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | | 705 | ▲1,925 | ▲2,631 | — |

前中期経営計画「ビジョン2025」結果と振り返り

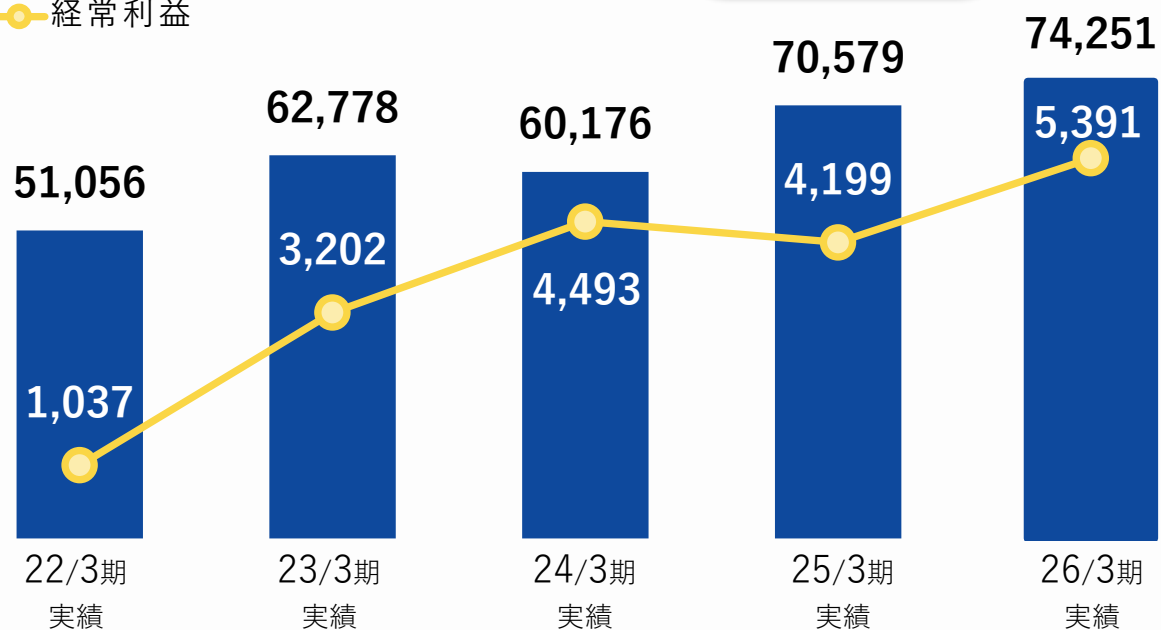
「ビジョン2025」における2026年3月期の定量目標

(単位：百万円)

| | 当初計画 | 最終目標 (2025年5月発表) | 2026年3月期実績 |
|------|--------|---------------------|------------|
| 売上高 | 70,000 | 74,000 | 74,251 |
| 経常利益 | 3,500 | 4,700 | 5,391 |

(単位：百万円)

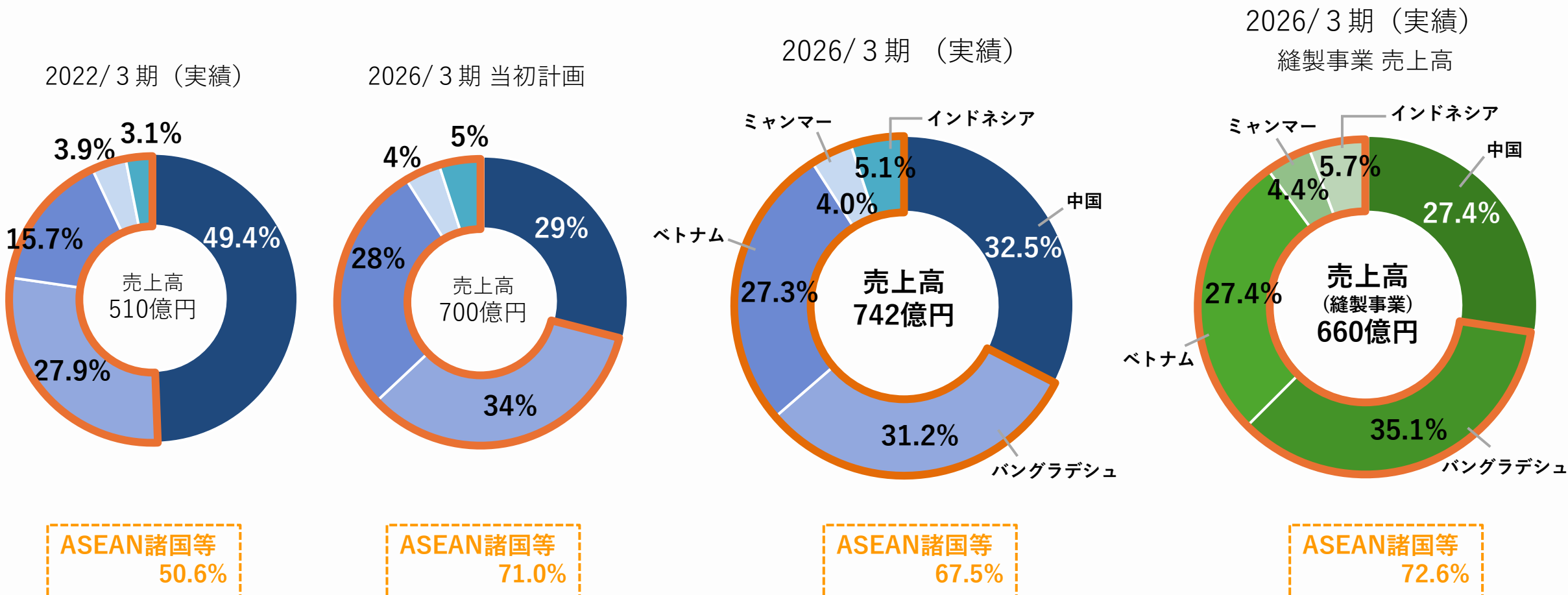
■ 売上高
● 経常利益



- 計画当初においては、コロナ禍での在庫調整局面という先行き不透明な環境下でスタートしたが、想定よりも早く在庫調整が進んだことに加え、計画期間中に建設した新工場の生産性向上が着実に成果を発揮し、当初計画を上回る水準で達成することができた。
- 一方、「生産基盤の拡大」や「データに基づく経営管理の高度化」といった点については、引き続き取り組むべき課題と認識。
- 新中期経営計画「BEYOND2028」において重点テーマとして位置づけ、前中計で築いた生産基盤を土台に、より持続的で統制の取れた成長を目指して取り組んでいく。

ASEAN諸国等売上高比率の推移

前中期経営計画「ビジョン2025」で掲げた生産地シフト目標と結果は下記の通り。
 中国とベトナムにおけるラミネーションフィルム事業の売上高を除いた縫製事業のみの売上高で算出すると、ASEAN諸国等比率は72%を超え、「ビジョン2025」で掲げた縫製事業における生産地シフトは達成したものと考える。
 グローバルな供給体制の基盤整備は一定の成果を挙げることができた。



前中計で新設した工場の生産キャパ状況

- 前中計で新設した3工場とも、オーダー状況に合わせて徐々に生産能力を高める計画。
- アンナム工場は、前年に続き顧客ニーズに合わせて付加価値の高い高難易度の生産品目が増え、生産キャパシティの拡大は緩やかな進捗となった。
- タンチュオン工場は、概ね計画通りに進捗、習熟度を向上させることで生産性を高めた。
- IMBD第2期工場は、猛暑の影響によるファン付きウェアの需要増加を背景に、ワーキングウェアの受注が増加し生産ラインの拡大を実施。前年と比べて生産枚数が大幅に増加。

| 工場名 | 最大 生産能力 | 2024年3月期 生産枚数（実績） | 2025年3月期 生産枚数（実績） | 2026年3月期 生産枚数（実績） |
|--------------------|------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 【ベトナム】アンナム工場 | 1,035万枚/年 | 341万枚/年 | 454万枚/年 | 472万枚/年 |
| 【ベトナム】タンチュオン工場 | 143万枚/年 | 27万枚/年 | 64万枚/年 | 87万枚/年 |
| 【バングラデシュ】IMBD第2期工場 | 450万枚/年 | 156万枚/年 | 142万枚/年 | 289万枚/年 |

INDEX

- 1 2026年3月期 決算概要
- 2 2027年3月期 連結業績見通し
- 3 直近の主なトピックス



2027年3月期 定量計画

(単位：百万円)

| | 2026年3月期 実績 | 2027年3月期 計画 | 増減 | 増減率 |
|-----------------------|-------------|-------------|----------|--------|
| 売上高 | 74,251 | 80,000 | +5,748 | +7.7% |
| 営業利益 | 2,174 | 3,400 | +1,225 | +56.3% |
| 為替差損益調整後営業利益 | 4,813 | 5,300 | +486 | +10.1% |
| 経常利益 | 5,391 | 4,900 | ▲491 | ▲9.1% |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 3,117 | 3,400 | +282 | +9.1% |
| 販売枚数（縫製事業） | 6,350万枚 | 7,000万枚 | +649万枚 | +10.2% |
| 販売ヤード数(ラミネーションフィルム事業) | 1,364万ヤード | 1,500万ヤード | +135万ヤード | +9.9% |

| 為替レート | | 2026年3月期 | | 2027年3月期 |
|---------|------|----------------|--------------|----------|
| | | (25/12) 子会社 | (26/3) 当社 | 通期想定レート |
| <円/USD> | 期中平均 | 149.6円 | 150.7円 | 151.3円 |
| | 期末 | 156.6円 | 159.9円 | 152.0円 |
| <円/元> | 期中平均 | 20.8円 | — | 21.2円 |
| | 期末 | 22.4円 | — | — |

2027年3月期 連結業績見通し

売上高 800億円（前期比+7.7%）

- アパレル需要は底堅く推移することを想定し、縫製事業を中心に堅調な受注環境が継続する見込み。バングラデシュ・ベトナム・インドネシアを中心とした生産キャパシティの拡大と稼働率向上を進め、生産体制を強化することで増収を見込む。

営業利益 34億円（前期比+56.3%）

- 生産量の増加および稼働最大化による固定費吸収の進展により、縫製事業の収益性向上を見込む。一方で、原材料費・物流費・人件費などのコスト上昇リスクを踏まえつつ、生産性向上や配置最適化により吸収を図り、前期からの増益を見込む。

為替差益調整後営業利益 53億円（前期比+10.1%）

- 営業利益の増加を背景に、本業の実力値を示す為替差損益調整後営業利益は前期を上回る見通し。営業取引から発生する為替差益は前期比で減少を想定するものの、事業面の増収効果による増益を見込む。

経常利益 49億円（前期比△9.1%）

- 期末の為替レートを152円/USDと想定し、ドル資産等の換算替えによる為替差損が発生する見込み。営業利益の増加で一定程度吸収するものの、財務取引から発生する為替差損を織り込んだ水準の見通しとしている。

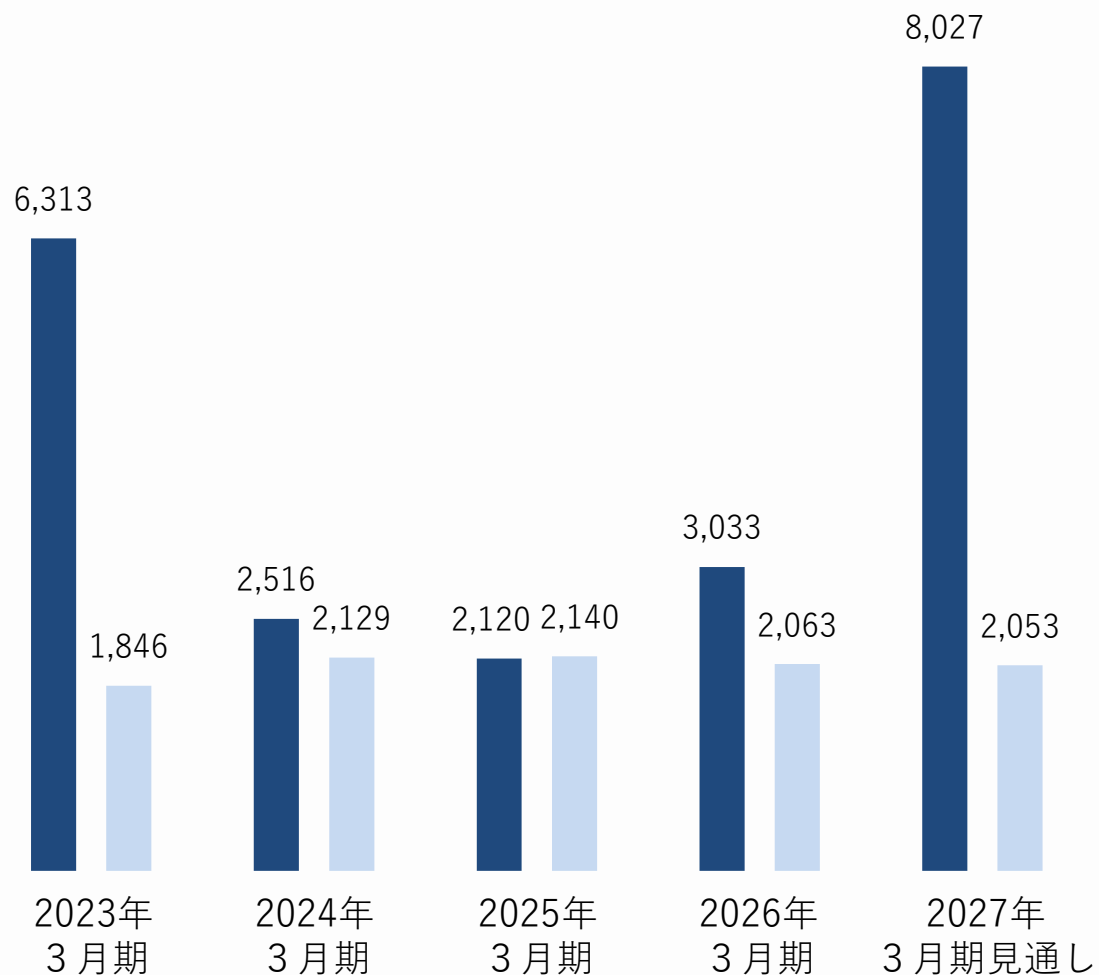
親会社株主に帰属する当期純利益 34億円（前期比+9.1%）

- 前期は連結子会社における減損損失の計上があり、特別損失が純利益を押し下げた。今期はこうした特別損失を見込んでおらず、本業の利益成長と合わせて、前期からの増益を見込む。

設備投資額・減価償却費の推移

設備投資額・減価償却費

■ 設備投資額 ■ 減価償却費 (単位：百万円)

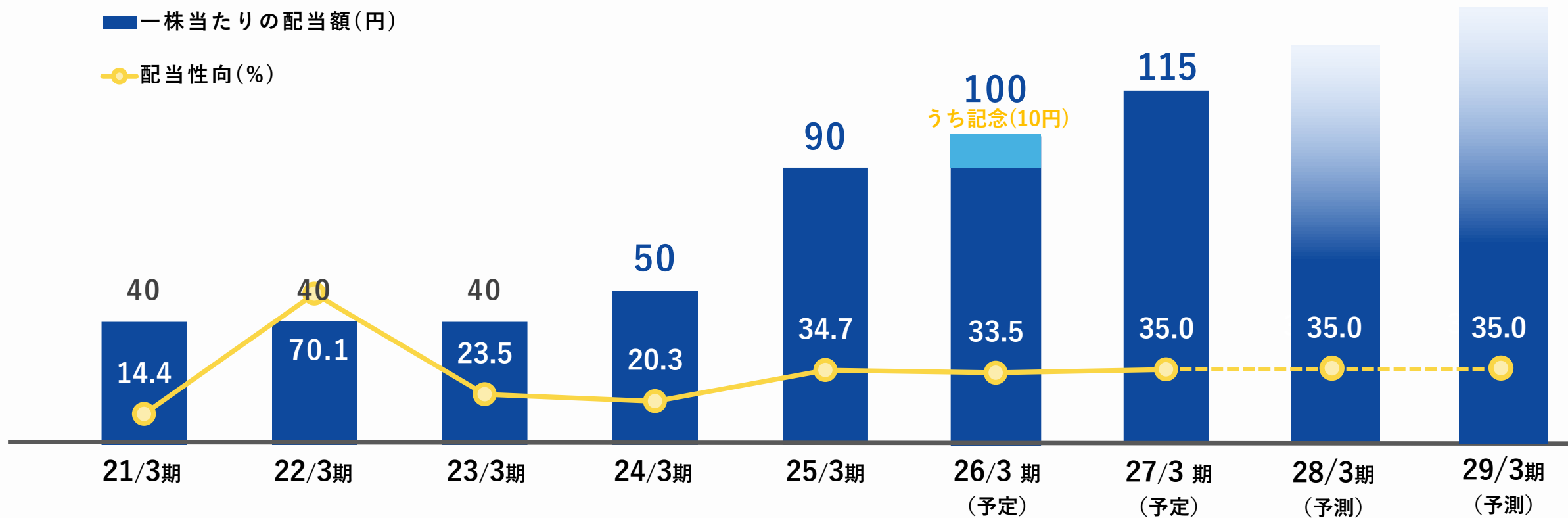


- 2026年3月期は、本社新社屋建設に約9億円、 Bangladesh 及びインドネシア工場の生産量拡大に向けた工場拡大投資を中心に、工場設備投資や買換え投資等で約20億円の設備投資を実施。
- 2027年3月期は、中期経営計画「BEYOND2028」の初年度における初期投資を計画。
- インドネシアでの新工場建設に約30億円、 Bangladesh 工場の拡大投資に約5億円、新設工場を含めた工場設備投資や買換え投資等に約40億円、MES導入にかかるソフトウェア投資約2億円を実施予定。

株主還元

- 2026年3月期は、普通配当90円に設立70周年記念配当10円を加えた、1株当たり100円の配当を予定
- 2027年3月期より配当性向30%から35%目安に引き上げ
- 財政状態や株価の状況に合わせて、機動的に還元強化を検討

中期経営計画期間



INDEX

- 1 2026年3月期 決算概要
- 2 2027年3月期 連結業績見通し
- 3 直近の主なトピックス



IMBD研修センターの設立

バングラデシュのIMBD工場では、2025年夏に「マツオカ研修センター」を開設しました。

工場のあるイッシュワルディ地域では、若年人口が多い一方で縫製工場が少なく、未経験入社による早期離職が課題でしたが、入社前に基礎技術を習得できる環境を整備することで課題解決を図っています。

研修はミシン操作から始まる段階的なプログラムで、1～2工程を担当できるレベルまで育成します。入学金は入社時に返金され、実質無料で受講できます。研修中に意欲のある人材を見極められるため、採用ミスマッチの減少や教育コスト削減にも繋がっています。現在は100名規模で運営、その多くが当社に入社するため、人員を安定的に確保できています。研修を経た従業員は業務の習得が早く、工場の生産性向上にも寄与しています。



工場紹介コンテンツ追加

当社HPに新たに「ベトナム・バクザン工場」のコンテンツを追加いたしました。バクザン工場が得意とするプリーツ加工をはじめ、付加価値技術を動画や画像を通してご紹介しています。また、現地で働く社員のインタビューも掲載しており、工場の雰囲気やものづくりへの姿勢を感じていただける内容となっています。今後も順次コンテンツを拡充してまいります。ぜひご覧ください。

日本語版

<https://www.matsuoka.co.jp/factory/bac-giang/>

英語版

<https://www.matsuoka.co.jp/en/factory/bac-giang/>



公式SNSアカウントを開設



マツオカコーポレーション
公式Instagramアカウント
[@matsuokacorp_official](https://www.instagram.com/matsuokacorp_official)



マツオカコーポレーション
公式Xアカウント
[@matsuokacorp_IR](https://twitter.com/matsuokacorp_IR)

当社は、情報発信体制の強化を目的として、公式Instagramアカウントおよび公式Xアカウントを開設いたしました。Instagramでは生産現場や事業の魅力を視覚的に発信し、XではIR情報を中心にタイムリーな情報提供をしていく予定です。今後も、ステークホルダーの皆様にご社の取り組みや服づくりの現場を分かりやすくお届けしてまいります。ぜひフォローしてご覧ください。

本資料の取り扱いについて

本資料に記載されている計画や見通し、戦略などは本書面の作成時点において取得可能な情報に基づく将来の業績に関する見通しであり、これらにはリスクや不確実性が内在しております。かかるリスク及び不確実性により、実際の業績等はこれらの見通しや予想とは異なる結果となる可能性があります。

これらの情報は、現在入手可能な情報から経営者の判断に基づいて作成されており、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみに全面的に依拠することはお控え下さいますようお願い致します。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。

本資料における表示方法について

数値：単位未満を切り捨て

比率：1円単位の金額で計算後、単位未満四捨五入

会計期間：連結・当社、国内および海外子会社の会計期間は次のとおり

| | 第1四半期 | 第2四半期 | 第3四半期 | 第4四半期 | 通 期 |
|--------------------|-------|-------|---------|---------|-------------|
| 連結・当社・ ミャンマー子会社 | 4月～6月 | 7月～9月 | 10月～12月 | 1月～3月 | 4月～翌年 3月 |
| その他の海外子会社 | 1月～3月 | 4月～6月 | 7月～9月 | 10月～12月 | 1月～12月 |

本資料に関するお問合せ先

株式会社マツオカコーポレーション

経営企画部 広報IR課



084-973-5201 <https://www.matuoka.co.jp/>

info_ir@matuoka.co.jp

公式SNSアカウント



@matsuokacorp_official



@matsuokacorp_ir



MATSUOKA

できる、を創る。